



あなたの町の予報官



室蘭地方気象台



生活を 命を 最前線で守り抜く

災害時等の取組 大雨などによる災害が予想される場合等には、市町等関係機関に気象の見通しを解説。災害発生時には、災害現場に予報官を派遣し人命救助や被災者支援等の災害応急活動を支援するため、気象・地震・火山等に関する解説を行っています。

予報官から気象の見通しを解説



Point

悪天が予想される場合、気象台では説明会等を開催し、参加する市町や関係機関に気象の見通しや防災上の留意点を解説。
オンライン会議システムを活用した適時・適切な気象解説によって市町等の防災上の判断を支援しています。

市町等と大雨対応の振り返り



双方の防災対応を検証・理解

突風現地調査(平取町)



気象庁機動調査班(JMA-MOT)を派遣

令和6年能登半島地震災害対応 気象庁防災対応支援チーム(JETT)を派遣



室蘭地方気象台予報官が輪島市災害対策本部会議で気象解説(左)、災害時気象支援資料作成(右)

あなたの町の予報官

平時の取組 気象台では、胆振・日高地方それぞれを担当する「地域防災支援チーム」を配置しています。平時には、市町や防災関係機関・報道機関等と連携し、地域防災力向上を図る様々な取り組みを行っています。

市町職員を対象にした
気象防災ワークショップを開催



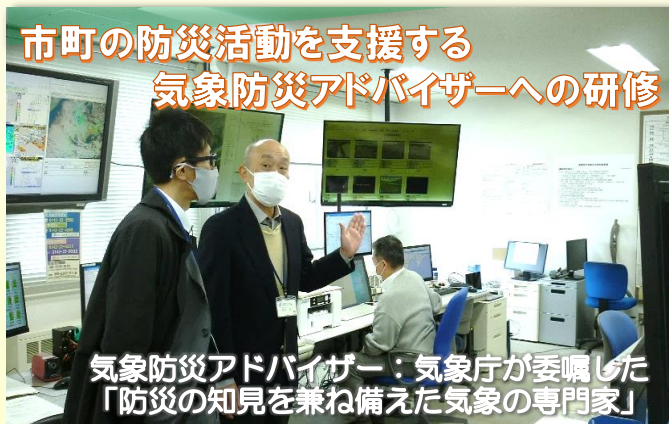
Point

刻々と変化する防災気象情報から講じるべき防災対応を疑似体験。各種の防災気象情報やその活用法を理解するとともに、体制強化や避難情報発令のタイミング等に関する検討も行い、判断のポイントを学んでいただくことによって防災対応力の向上を目指しています。

関係機関と合同で火山勉強会



市町の防災活動を支援する
気象防災アドバイザーへの研修



気象防災アドバイザー：気象庁が委嘱した「防災の知見を兼ね備えた気象の専門家」

関係機関と連携して津波フラッグを活用した避難訓練



子供たちが自然現象の仕組みを体験



時代とともに進化する防災気象情報

2000(平成12) 有珠山噴火



1978(昭和53)

静止気象衛星
ひまわり観測開始



1884(明治17)

東京気象台で毎日3回
全国の天気予報を発表
震度の観測開始

1883(明治16)

天気図印刷・配布開始

1872(明治5)

日本最初の気象観測所が
函館に開設

1923(大正12)年1月1日
室蘭測候所が業務開始



室蘭港発祥の地 現在の緑町

気象信号標と呼ばれる旗で
天気予報や警報を伝達

写真：ふるさとの思い出写真集(国書刊行会)より

1957(昭和32)
室蘭地方気象台に昇格



山手町

1959(昭和34)

コンピューター
を使った天気予報開始



1974(昭和49)

アメダス運用開始



1993(平成5)

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

火山情報の改善

2017(平成29)

警報級の可能性発表開始
大雨警報(浸水害),洪水警報の
危険度分布(キキクル)提供開始



現在の庁舎

2014(平成26)

道内初の大雨特別警報発表



写真：札幌開発建設部提供

2019(令和元年)

「現在の雪」
(解析積雪深・解析降雪量)提供開始

2018(平成30)

北海道胆振東部地震



写真：北海道開発局提供

2013(平成25)

特別警報の開始



写真：北海道電力提供

2011(平成23) 東日本大震災



写真：浦河海上保安署提供

スマホで防災情報を確認
プッシュ型通知サービスで
直接の情報受取も可能に



2022(令和4)

線状降水帯予測の開始
北海道・三陸沖後発地震注意情報
運用開始

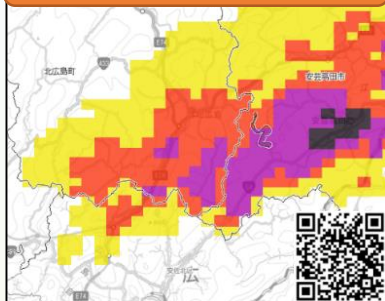
大切な命を守るために

キキクル（危険度分布）

大雨による災害発生の危険度の高まりを地図上で確認できる危険度分布「キキクル」をWEB上で公開しています。



浸水キキクル



洪水キキクル



土砂キキクル



STEP 1

スマホでコードを読み取って各ページへアクセス！

STEP 2

地図を拡大・移動して任意の場所を表示！
GPS機能もあり！

警戒レベル

災害発生の危険度を直感的に理解しやすい「警戒レベル」を用いて伝えます。

高
危険度
低

- 黒 災害切迫 ← 重大な災害が発生または切迫している
- 紫 危険 ← 重大な災害がいつ発生してもおかしくない
- 赤 警戒
- 黄 注意
- 白 今後の情報等に留意

※洪水キキクルの「今後の情報等に留意」は水色表示となっています。

警戒レベル 5 警戒レベル 5 相当情報	緊急安全確保 (市町村が発令)	大雨特別警戒 氾濫発生情報
〜〜警戒レベル4までに必ず避難！〜〜		
警戒レベル 4 警戒レベル 4 相当情報	避難指示 (市町村が発令)	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報
警戒レベル 3 警戒レベル 3 相当情報	高齢者等避難 (市町村が発令)	大雨警報 洪水警報 氾濫警戒情報
警戒レベル 2 警戒レベル 2 相当情報		大雨注意報 洪水注意報 氾濫注意情報

北海道・三陸沖後発地震注意情報

地震発生後、続いて起こる巨大地震の発生可能性が通常よりも高まっている場合に発信し、注意を促します。

マグニチュード **M7.0** 以上の大地震が起きたら…

続いて発生する巨大地震の可能性！
情報で備えを

東日本大震災のときは
3月9日 M7.3 続いて発生 3月11日 M9.0

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」2022年12月運用開始

※情報が発信されたとしても、必ず巨大地震が発生するとは限りません。

すぐに避難できる態勢の準備を！

津波フラッグ

耳の不自由な方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方に、視覚的に津波警報等を知らせます。

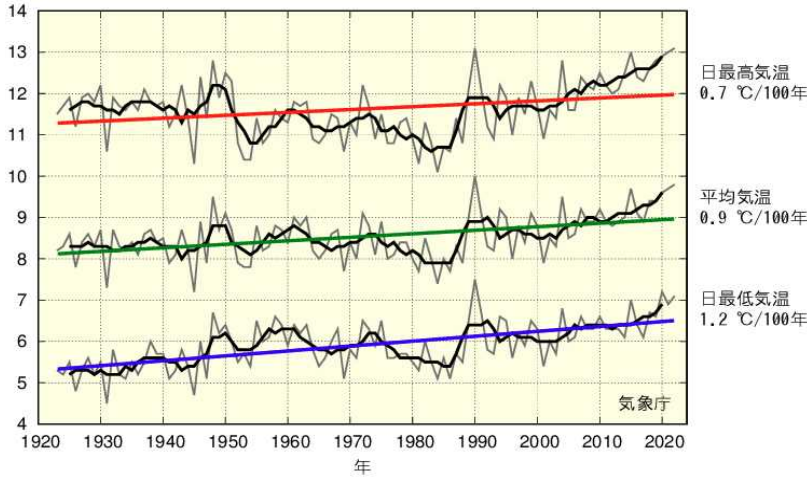
「津波フラッグ」は津波警報等が発表されたことをお知らせする旗です。

津波フラッグを見たらすぐにげて！

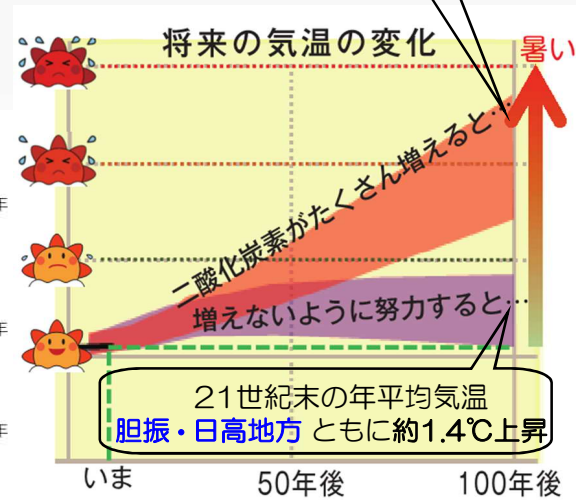
現在の地球は過去1400年で最も暖かくなっています

室蘭の平均気温は100年間で0.9℃も上昇しました。

温暖化の原因の一つに、空気中の二酸化炭素が増えていることがあげられます。



21世紀末の年平均気温
胆振地方では約4.8℃上昇
日高地方では約4.7℃上昇

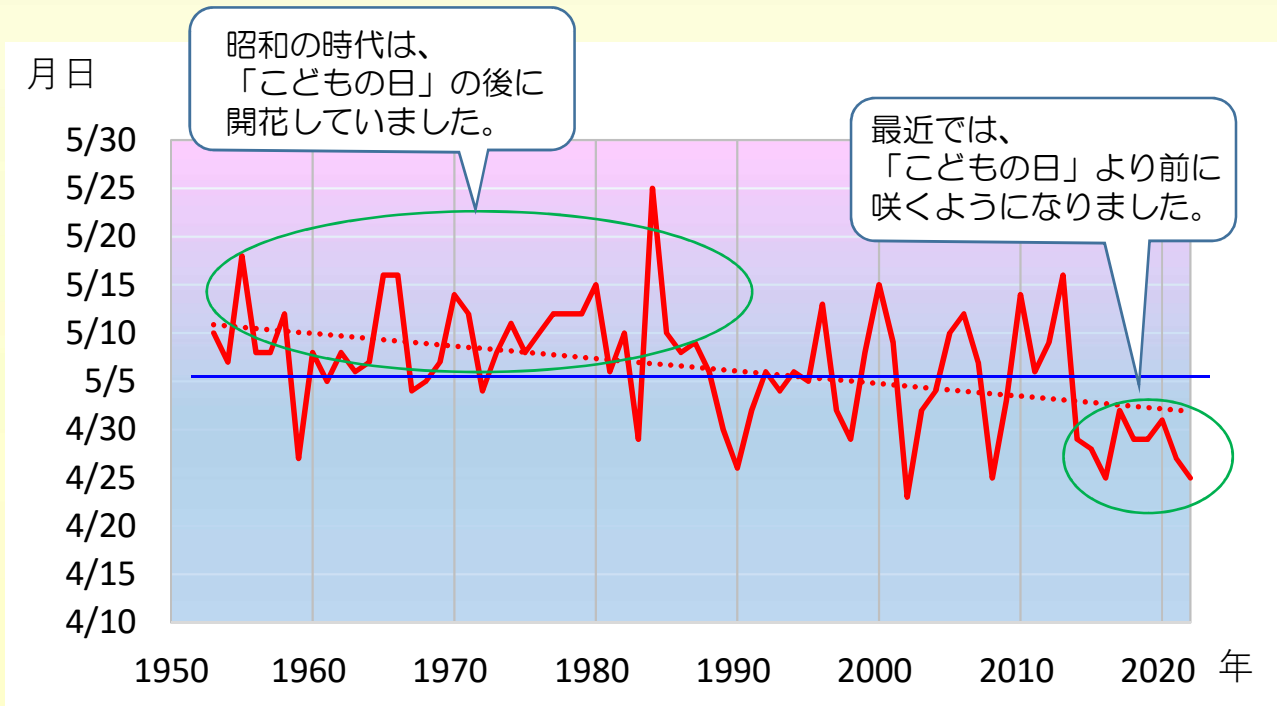


胆振・日高地方の気候の変化

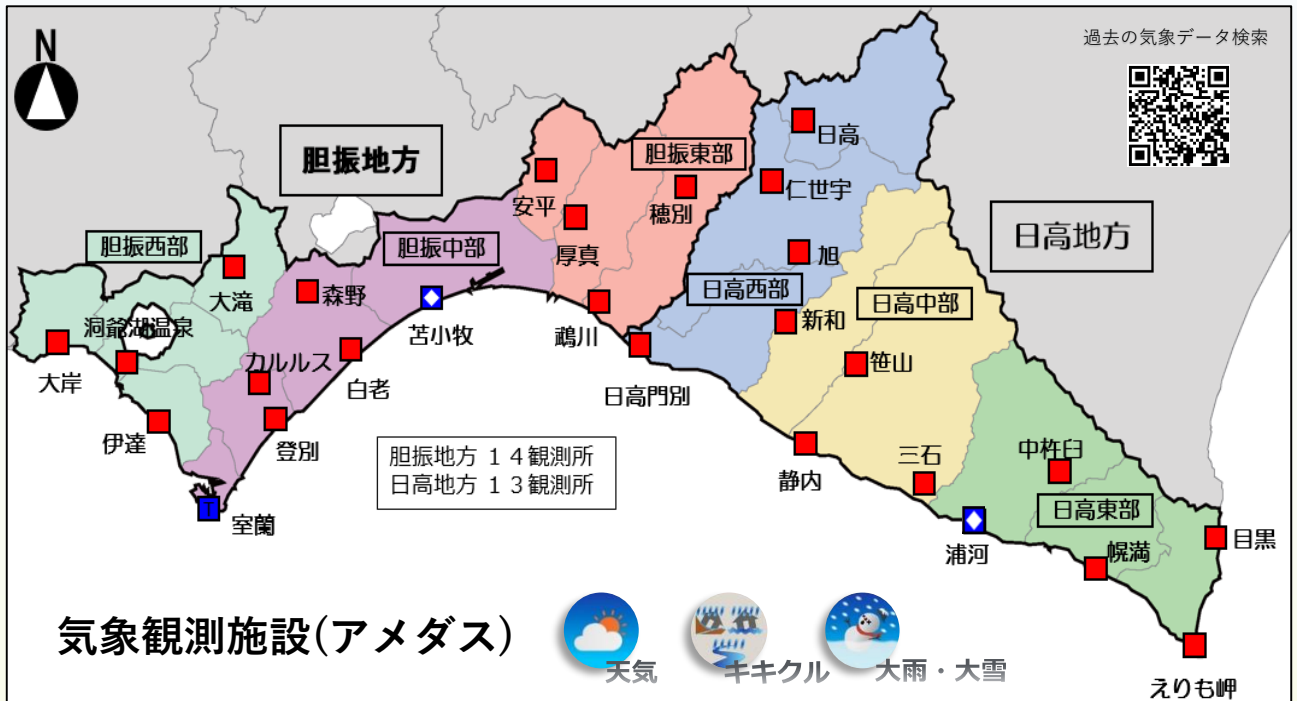


さくらの開花も早まる

室蘭ではさくらの開花は、10年あたり1.3日早くなりました。



自然をみつめる観測施設



室蘭地方気象台の沿革

大正12年 (1923年)	1月	室蘭市緑町1番地において業務を開始。
昭和14年 (1939年)	11月	室蘭測候所は国営に移管。
昭和27年 (1952年)	1月	現在地(室蘭市山手町2丁目)に移転。
昭和32年 (1957年)	9月	地方気象台に昇格。
昭和60年 (1985年)	6月	新庁舎(現庁舎)での業務を開始。